

CXF アムズ(株) OEM: KXF (株)クボタ 共同開発: なし 処理方式: 流量調整型嫌気ろ床担体流動浮上ろ過方式 5・7・10人槽	窒素除去型		
	全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N
	20mg/L以下	—	20mg/L以下
性能評定または性能評価値			
BOD	SS	T-N	
10mg/L以下	10mg/L以下	10mg/L以下	

初期標準設定

CXF

流量調整装置	循環装置	循環バルブ	逆洗装置	逆洗バルブ
有	有	有	有	50に設定

[バルブ類の標準設定]

人槽	5人	7人	10人
定量移行装置	5	7	10
循環装置	5	7	10
揚水管(放流用)	15	15	15
逆洗	50	50	50
エアリフト	74	78	82

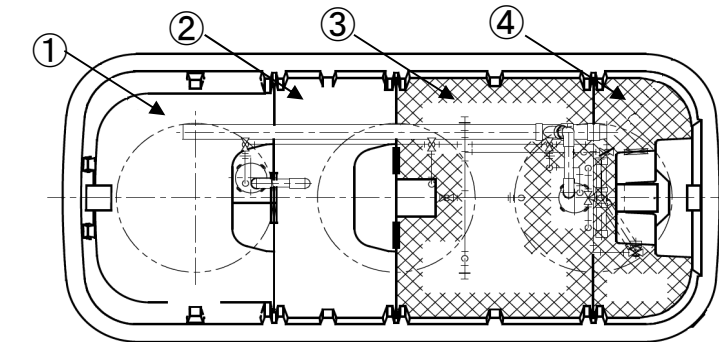
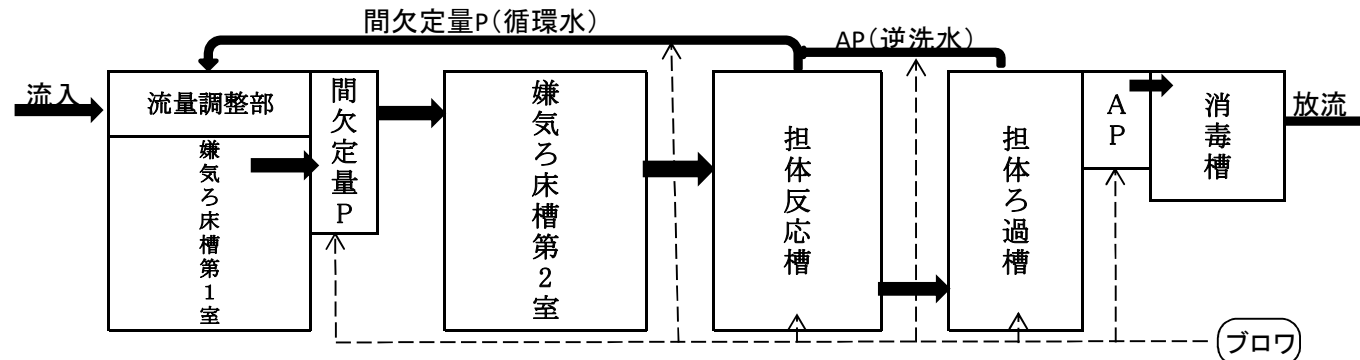
[各移送水量の設定範囲]

実使用人員	5人	7人	10人
流量調整水量(L/分)	2.1~5.5(3.8)	2.9~7.8(5.3)	4.2~11.1(7.6)
循環水量(L/分)	2.1~3.5(2.8)	2.9~4.9(3.9)	4.2~7.0(5.6)
放流水量(L/分)	1.0	1.4	2.0

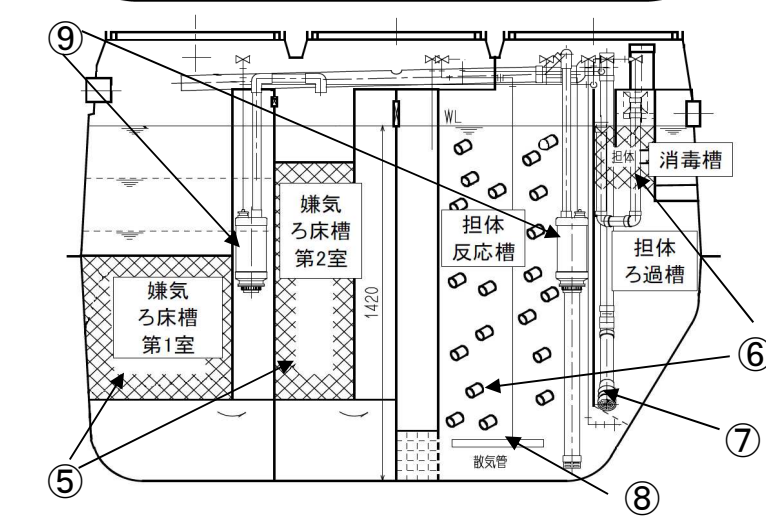
※ 流量調整水量と循環水量の()内の数値は、性能評価型小型浄化槽の概要2より抜粋した。

[送風機容量]

人槽	ブロウ風量(L/分)	逆洗時刻	逆洗時間	逆洗回数	逆洗周期
5人	80	AM2時	5分	1回	1日
7人	110~120				
10人	150~165				



- ①嫌気ろ床槽第1室
- ②嫌気ろ床槽第2室
- ③担体反応槽
- ④担体ろ過槽
- ⑤嫌気ろ床槽ろ材
- ⑥担体ろ過槽担体 / 担体反応槽担体
- ⑦担体流出防止網 / 逆洗管
- ⑧散気管
- ⑨間欠定量ポンプ



特 徴

嫌気ろ床槽 第1室、2室ともに、下向流であり、骨格様球状ろ材が充填されている。第1室の清掃孔に間欠定量ポンプが設置されており、所定量の流出水が第2室に移送される。そのため、第1室のみ水位変動がある。

担体反応槽 中空円筒状担体が充填されており、BOD除去と硝化反応が行われる。槽内水は、槽底部の移流口を介して担体ろ過槽へ移流する。槽内水の一部は、間欠定量ポンプによって嫌気ろ床槽第1室に循環される。

担体ろ過槽 担体反応槽と同一の担体が充填されており、上向きに流れる過程でSSの捕捉が行われる。ろ過後の流出水は、エアリフトポンプによって消毒槽へ移送される。1日1回(初期設定:AM2時から5分)逆洗運転が実施され、担体に捕捉されたSSが剥離され、嫌気ろ床槽第1室に移送される。

消毒槽 担体ろ過槽からのオーバーフロー口および放流口には、担体流出を防止するため、ネット等が設置されている。

作業時のポイント

保守点検

- ①各単位装置の水位の異常な上昇およびその形跡を点検し、異常がある場合は閉塞箇所を特定し、解消してください。
- ②流量調整用・循環用間欠定量ポンプは、バルブ開度を点検し、吐出終了から次の吐出終了までの1サイクルの時間と1回あたりの吐出水量を実測し、1分間当たりの移送水量を確認してください。
- ③担体反応槽は、担体の流動状況や槽内水の性状を点検し、必要に応じて、ばっ気を停止して浮上した担体の厚さを測定し、担体の充填量を確認してください。また、保守点検ごとに流入口に設けられたネット等を洗浄してください。
- ④担体ろ過槽は、流出水および汚泥の蓄積状況を点検し、保守点検ごとに手動逆洗を行い、逆洗状況を確認して、逆洗の設定変更の検討を行ってください。また、必要に応じ、担体の充填量を確認してください。加えて、消毒槽に担体が流出していないか確認してください。

⑤揚水管(放流用エアリフトポンプ)は、バルブ開度(標準:15)を点検し、処理水の揚水の状況を確認し、保守点検ごとに配管等の洗浄を行ってください。

清掃

- ①汚泥の引き出しは嫌気ろ床槽第1室が全量、第2室は適正量とし、その他の単位装置は必要に応じて実施してください。

槽名	有効容量 (m ³)	5人槽	7人槽	10人槽
	嫌気ろ床槽第1室(L.W.L)	0.678	1.015	1.425
	<流量調整部>	0.286	0.432	0.695
	嫌気ろ床槽第2室	0.636	0.958	1.406
	担体反応槽	1.025	1.426	2.039
	担体ろ過槽	0.367	0.499	0.742
	消毒槽			0.022
	合計	3.014	4.352	6.329

槽底部からろ材受け面までの距離 (mm)	嫌気ろ床槽第1室	325	400
	嫌気ろ床槽第2室	325	400